

公共事業再評価調査

整理番号 H27-3

担当部課名	県土整備部 道路課	電話番号	017-734-9651
		E-MAIL	doro@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着工 <input type="radio"/> 長期継続 (年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5 年) <input type="radio"/> その他 ()
---------	--

1 事業概要

事業種別	道路改築事業	事業主体	<input checked="" type="radio"/> 県 <input type="radio"/> 市町村 <input type="radio"/> その他 ()																																																		
事業名	県道改築事業	地区名等	むつ恐山公園大畑線 葉色沢	市町村名	むつ市																																																
事業方法	<input type="radio"/> 国庫補助 <input checked="" type="radio"/> 交付金 <input type="radio"/> 県単独 財源・負担区分 <input checked="" type="radio"/> 国 65 % <input checked="" type="radio"/> 県 35 % <input type="radio"/> 市町村 % <input type="radio"/> その他 %																																																				
採択年度	平成 13 年度 (用地着手 平成 22 年度 / 工事着手 平成 24 年度)																																																				
終了予定年度	平成 29 年度 (平成 26 年 3 月 工期変更 (再評価時 平成 25 年度))																																																				
事業目的	<p>・主要地方道むつ恐山公園大畑線は、むつ市市街地を起点とし、恐山を経由しむつ市大畑地区にいたる延長約40.6kmの道路で、むつ市街地と同市大畑町を連絡する生活・物流路線であるとともに毎年多くの参拝客が訪れる霊場恐山や葉研溪流などへの観光路線としても重要な路線である。</p> <p>・大畑川沿いを走る葉色沢地区は、降雨による冠水により度々の通行止めを余儀なくされ、円滑な通行に支障を来していることから、道路(兼河川護岸)のかさ上げ、拡幅による道路改良を実施するものである。</p> <p>【計画名称】 青森県の道づくり基本方針(平成14年度策定) 交流促進と連携強化を支援するあおもりの道づくり 【計画目標】 ①生活・経済圏の連携強化。②農水産品の都市への円滑な輸送 ③国土保全を担う中山間地域と都市の支援。④交通拠点へのアクセス性強化 ⑤救急医療体制の支援</p>																																																				
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>再評価時</th> <th>再々評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画延長</td> <td>860 m</td> <td>860 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>計画幅員</td> <td>6,0(9.0) m</td> <td>6,0(9.0) m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>改良工</td> <td>890 m</td> <td>890 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>5,340 m²</td> <td>5,340 m²</td> <td>0 m²</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>・事業計画については、再々評価時と変更はない。</p>					区 分	再評価時	再々評価時	増 減	計画延長	860 m	860 m	0 m	計画幅員	6,0(9.0) m	6,0(9.0) m	0 m	改良工	890 m	890 m	0 m	舗装工	5,340 m ²	5,340 m ²	0 m ²				0																								
区 分	再評価時	再々評価時	増 減																																																		
計画延長	860 m	860 m	0 m																																																		
計画幅員	6,0(9.0) m	6,0(9.0) m	0 m																																																		
改良工	890 m	890 m	0 m																																																		
舗装工	5,340 m ²	5,340 m ²	0 m ²																																																		
			0																																																		
事業費	<p>○再評価時総事業費 550 百万円 (単位:百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>~24年度</th> <th>~25年度</th> <th>~26年度</th> <th>~27年度</th> <th>小 計</th> <th>28年度~</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>① 485</td> <td>65</td> <td>550</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>② (4)</td> <td>(0)</td> <td>(4)</td> </tr> <tr> <td>〈 年 月変更〉</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>142</td> <td>113</td> <td>88</td> <td>130</td> <td>③ 473</td> <td>77</td> <td>⑤ 550</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>(2)</td> <td>(1)</td> <td>(1)</td> <td>()</td> <td>④ (4)</td> <td>(0)</td> <td>⑥ (4)</td> </tr> </tbody> </table>						~24年度	~25年度	~26年度	~27年度	小 計	28年度~	合 計	計 画					① 485	65	550	(うち用地費)	()	()	()	()	② (4)	(0)	(4)	〈 年 月変更〉								実 績	142	113	88	130	③ 473	77	⑤ 550	(うち用地費)	(2)	(1)	(1)	()	④ (4)	(0)	⑥ (4)
	~24年度	~25年度	~26年度	~27年度	小 計	28年度~	合 計																																														
計 画					① 485	65	550																																														
(うち用地費)	()	()	()	()	② (4)	(0)	(4)																																														
〈 年 月変更〉																																																					
実 績	142	113	88	130	③ 473	77	⑤ 550																																														
(うち用地費)	(2)	(1)	(1)	()	④ (4)	(0)	⑥ (4)																																														

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A)・B・C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
			86 % [③/⑤] (100 %) [④/⑥]	97.5 % [③/①] (100 %) [④/②]
	主要工種 毎割合 (事業費)	改良工 (500 百万円)	94.6 %	107.2 %
		舗装工 (50 百万円)	0.0 %	0.0 %
		(百万円)	%	%
説 明	<p>・用地は、ほとんどが国有林(一部民有地)でH23に取得済みである。(H24以降の用地費としての計上は、残土置場の借地料)</p> <p>・H24から工事に着手し、河川護岸のかさ上げ及び拡幅工事を進めている。</p>			
問題点・ 解決見込み	<p>・道路の冠水対策であることから、施工時期を渇水期(11月~3月)とする必要があり施工時期に制約がある。</p> <p>・工区近隣(約200m)に猛禽類(クマタカ)の営巣を確認しており、平成20年から調査(モニタリング)を実施している。調査は、クマタカの毎年春に向けた営巣状況の確認及び工事による営巣地周辺の行動圏変化を調査、学識者に意見聴取し次年度工事に向けた保全対策を検討するものである。</p> <p>学識者意見によると、工事着手後(H24~)において、クマタカが工事を忌避するなどの傾向は確認されていないとのこと。</p> <p>今後も同調査を継続しモニタリングを行っていくこととしている。</p>			
事業効果 発現状況	<p>(部分供用なし)</p> <p>・道路(河川護岸)のかさ上げ及び現道拡幅であることから、かさ上げが完了した箇所は冠水のリスクが減少するとともに、拡幅による円滑な交通の確保もなされていることから、工事完了毎に効果が発現されている。</p>			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>【全国の評価】</p> <p>平成24年3月に閣議決定された「第3次社会資本整備重点計画」では、東日本大震災を教訓とした国民の命と暮らしを守る持続可能で活力のある国土・地域づくりの実現を図るために、選択と集中の方針の下、効果的・効率的に道路整備を進めるとともに、大規模災害時における緊急車両の進入路・避難路として機能する道路の整備を推進することが必要とされている。</p>	<p>【県内の評価】</p> <p>自動車交通への依存度が高い本県では、道路整備に対する根強い要望がある。</p> <p>東日本大震災を契機として、これまで道路に必要とされてきた通行機能に加えて、災害発生時の防災機能（緊急物資輸送や避難路等）確保の重要性が再認識されている。</p>
	当地区における評価	<p>・下北半島の道路交通は、海岸部を走る国道に大きく依存している。しかしながらこれらの国道は、海岸沿いの地形条件の厳しい地域を通過することから、落石等の災害や波浪等の気象条件の影響を受けやすく、これまでも頻繁に通行止めが発生している。当該路線は、これらの代替路線であることから、原子力施設の立地する下北半島の緊急時における代替道路として重要性が高まっている。</p>	
必要性	<p>・本路線は、大間原子力発電所の緊急避難道路である国道279号で通行止めが発生した場合の代替道路である。</p>		a. b
適時性	<p>・大間原子力発電所の緊急避難道路である国道279号の代替路線として早期の整備が望まれている。</p>		a. b
地元の推進体制等	<p>・用地の取得は完了しており、地域住民からの事業に対する理解が得られ、当該工区の早期完成が望まれている。</p>		a. b
効率性	<p>・本路線の整備により、降雨時における路面冠水による通行止めが解消されるとともに、幅員狭小箇所が解消され安全で円滑な交通が確保される。</p>		

(3) 費用対効果分析の要因変化

A ・ (B) ・ C

区分	主な項目	再評価時	再々評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 事業費	506 百万円	512 百万円	6 百万円
	(2) 維持修繕費	63 百万円	65 百万円	2 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	569 百万円	577 百万円	8 百万円
便益項目 (B)	(1) 走行時間短縮便益	192 百万円	147 百万円	△ 45 百万円
	(2) 走行費用減少便益	10 百万円	6 百万円	△ 4 百万円
	(3) 交通事故減少便益	- 百万円	0 百万円	0 百万円
	(4) 冬期便益	86 百万円	61 百万円	△ 25 百万円
	(5) 防災便益	569 百万円	497 百万円	△ 72 百万円
	総便益(B)	857 百万円	711 百万円	△ 146 百万円
	地域修正係数(φ)	1.438	1.438	
	修正総便益(B')	1,232 百万円	1,022 百万円	△ 210 百万円
費用便益比	費用便益比(B/C)	1.51	1.23	
	修正費用便益比(B'/C)	2.17	1.77	
費用対効果分析 (B/C)	<p>【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益分析マニュアル(平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局) ・道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱(平成21年2月 青森県 県土整備部 道路課) 			a. b
再評価時との比較	<p>【計画時との比較における要因変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・供用時期の遅れに伴う便益の減少 			a. (b)

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A)・B・C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 ・路盤材・舗装合材に再生材を使用し、経費の縮減を図ることとしている。 ・排水施設等の小規模構造物については極力、工場製品を使用し、工期の短縮及び経費の縮減を図っている。	a. b
代替案	【代替案の検討状況】 ・比較ルートとしては、山側へルートを振ったバイパス案が想定されるが、地形変化が大きくなることから現行案が最適であると考ええる。	a. b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A)・B・C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 ・むつ市から早期整備を求める重点要望が出されている。	【住民ニーズ・意見】 ・むつ市大畑地区住民から安全な道路の整備を求められている。	a. b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 ● 配慮している ○ 配慮していない (2)区分 ● 農林地等の緑地や植生の改変 ● 地形や地盤の改変 ● 水系や水辺の変更 ○ 海域環境の変更 ● 敷地整備段階での重機の使用 ● 土砂等の搬出・搬入 ○ 廃棄物処理等 ● 道路(車歩道)、雨水排水路の設置 ○ 基礎や地下建造物の建設 ○ 低層建築物の建設 ○ 高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮 ○ 高架構造物の建設 ○ 海底・海中建造物の設置や建設 (3)特に配慮する対応内容 工区近隣でのクマタカの営巣・繁殖に細心の注意を払いながら工事を進めている。 ・平成20年度から毎年モニタリングを実施し、工事の影響の有無を判断するため学識者に意見聴取している。 →工事着手前(H20～H23)と着手後(H24～)で出現状況等に变化が無く工事を忌避する等の傾向が見られないとのこと。 ・工事施工中の保全対策として、低騒音・低振動機械を使用し、突発的な騒音を避けるなどの保全対策を取っている。		a. b
地域の立地特性	(地域指定) 過疎地域、振興山村地区、農村地域工業等導入促進地区、半島振興対策実施地域 (災害の記録) H10/9/16～9/17冠水による通行止め(大雨、延長約100m、23時間) H14/10.2 冠水による通行止め(台風、延長約200m、4時間) (危険箇所情報) なし		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	● 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
評価理由	・費用対効果分析の要因変化が「B」評価であるものの、国道279号の代替路であること及び進捗率が82%と完成までわずかであることから対応方針を「継続」とした。
備考	

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	● 対応方針(案)どおり ○ 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	● 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載) ・当該工区については、事業完了後の事後評価において、クマタカの生息状況等を調査すること。 ・また、道路周辺の植生状況(特に法面への外来種の侵入状況)について調査すること。
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)